

2023 年 10 月 26 日
コムシスホールディングス株式会社

温室効果ガスの排出削減目標について Science Based Targets (SBT) 認定を取得しました

コムシスホールディングス株式会社（本社：東京都品川区 代表取締役社長 加賀谷 卓）は、2030 年の温室効果ガス排出削減目標が、パリ協定（*1）が定める目標の水準に沿った科学的根拠に基づいた目標（Science Based Targets (SBT)）として、国際機関「SBT イニシアチブ（*2）」より認定を取得しました。



コムシスグループは、「時代をになう多様なインフラ建設」でお客様に選ばれ続ける企業を創る、「豊かな生活を支える社会基盤づくり」で国と地域に貢献する、たゆまない改革を続けさらなる企業価値の向上を目指す、という経営理念のもと、地球温暖化・気候変動への対応をサステナビリティの重要な課題の一つと認識し、2050 年度までのカーボンニュートラルの実現の目標を掲げ、温室効果ガス（以下、GHG）排出量削減を進めており、その取組みの一環として 2030 年の GHG 排出量削減目標を設定しました。

このたび認定を受けた目標の達成に向けて、今後も環境負荷低減を考慮した事業運営を徹底し、GHG 排出量の削減を積極的に進め、脱炭素社会の実現に貢献できるよう一層つとめてまいります。

（*1）世界の気温上昇を産業革命前より 2℃を十分に下回る水準に抑え、また 1.5℃に抑えることを目指すもの

（*2）SBT イニシアチブはパリ協定目標達成に向け、企業に対して科学的根拠に基づいた GHG の

排出削減目標を設定することを推進している国際的なイニシアチブ。環境情報の開示に関する NGO である CDP、国連グローバル・コンパクト、WRI（世界資源研究所）、WWF（世界自然保護基金）の 4 団体が共同で 2015 年に設立。パリ協定が定める目標（世界の気温上昇を産業革命前より 2℃を十分に下回る水準に抑え、1.5℃を目指すこと）を達成するために最新の気候科学により必要とみなされる水準に沿っていると認めた場合、これを科学的根拠に基づいた目標（Science Based Targets）として認定

【コムシスホールディングスにおける GHG 排出量削減目標】

- Scope1+2 の削減目標（*3）
：2020 年度基準にて、2030 年度に 42%削減
- Scope3 の削減目標（*4）
：2020 年度基準にて、2030 年度に 25%削減

（*3）Scope1 は事業者自らによる GHG の直接排出、Scope2 は他社から供給されたエネルギー利用に伴う間接的な GHG 排出

（*4）Scope1、2 を除くサプライチェーン全体の GHG 排出

本件に関するお問い合わせ先

コムシスホールディングス株式会社 経営企画部 サステナビリティ推進室

Mail comsys-sustainability.tokyo@comsys.co.jp

以上